

双塔



カトリック新潟教会 2015年 3月

No.322

四旬節の旅路

主任司祭 ラウル・バラデス

母なる教会はこの典礼の季節を通して、私たちの信仰生活を支え、新たにしてくださいませ。四旬節は基本的に復活徹夜祭への招きであり、その準備期間でもあります。そのため、より豊かにご復活の祝いに参加できるように回心への呼びかけが繰り返されます。

この期間に、主イエスの道を学び、密接的に従うよう「祈り」「節制」「施し」この三つの課題、三つの道具が与えられます。

洗礼を受ける方々にとって四旬節は特別な意味を持っています。

洗礼への最後の準備期間であるこの季節は、イスラエルの荒れ野の40年間の歩みを思い出させます。

出エジプトのときと同じように、神様は洗礼志願者にご自分の存在を感じさせて、ご自分の「名」で親しく呼ばれるように教え、そして契約を結んでくださいませ。

レビ記に、主がその旨を次のように語られています。

「わたしはお前たちのうちにわたしの住まいを置く。わたしはお前たちの間を巡り歩き、お前たちの神となり、お前たちはわたしの民となるであろう。」

主イエスを通して神ご自身は私たちの間にご自分の住まいをおいて、私たちの間を巡り歩いてくださいませ。洗礼の恵みによって私たちは神の民となり、私たちはこの世にいる間、神をあかしするよう励むべきです。

ベネディクト十六世のことばを借りて、よい四旬節を願っています。

「わたしたちを復活祭へと導くこの四十日の間、忍耐と信仰をもって、どんな困難と苦悩と試練に満ちた状況をも受け入れる、新たな勇気を再び見いだすことができますように。

主は暗闇から新たな日を昇らせることを、悟ることができますように。

イエスに忠実にとどまり、イエスに従って十字架の道を歩むなら、神の明るい世界が、光と真理と喜びに満ちた世界がわたしたちに再び与えられます。

どうか皆様が恵み深い四旬節の旅路を歩まれますように。」



そよかせ便り



■年間第3主日 《 入門式 》 ----- 1月25日 -----

1月の新潟にはめずらしい“ぽかぽか陽気”の日曜日。

ラウル神父様の司式のミサの中で「入門式」が行われた。3人の女性の志願者と代母が祭壇の前で、洗礼の意思を表明。それぞれの代母が志願者に耳、口、目、胸、肩に十字架をしるしたのち、教会の伝統に従って「主の祈り」が授けられた。ラウル神父様は「キリストの教えに従って生きることを求める人々を、この共同体に受け入れます」と応えられ「こういう日は、説教はいりません。私たちは信仰の原点に返ることができます」と心に沁みるお話をされた。



■年間第4主日 《 ロウソクの祝別 》 ----- 2月2日 -----

久しぶりに前夜に降った雪が、数センチ積もった朝、雪を踏むとキュ、キュと音がした。そんな寒い朝、7時からのミサが行われる小聖堂の祭壇前には、各家庭から持ち寄られたロウソクの箱が置かれた。ミサの前に、参列者はロウソクを持って箱を囲み、ナジ神父様は祈りとともに聖水を振り掛けられ、祝別を行った。

■年間第5主日 《 世界反人身売買、祈りと黙想と行動の日 》 -----2月8日-----

菊地司教様は冒頭で、数日前に教皇庁からこの日の司式を促す通達があった、と説明されてからミサを始められた。

教会の義務は「囚われからの解放」を福音することであり、「教会こそが、命の安らぎを得られることを示す」義務がある。「自由を奪われている人々がいることを思い起こし、祈り、行動、黙想をする日にしましょう」と話された。

■ 《 灰の水曜日 》 大斎・小斎 ----- 2月18日 -----

四旬節の初日である「灰の水曜日」は、復活祭の46日前に当たる。10時のミサには青山教会や寺尾教会、花園教会の方々も来られて約40人が集まり、ラウル神父様のお話の後、回心のしるしとして頭に灰を受けた。

成人のキリスト教入信への道

成人がキリスト教に入信しようとするときは、

「入門式」によって“求道者”として共同体に受け入れられ、「主の祈り」の授与を受けます。

その後、機が熟したと判断されると、求道者は「洗礼志願式」でキリスト教の信条を授けられ、正式に“洗礼志願者”として共同体に受け入れられます。

最終的に、悪霊の拒否と三位一体への信仰を表明することにより、復活徹夜祭で入信の秘跡（洗礼・堅信・聖体）をもってキリスト者として歩み始めます。



《2015年 新潟教会のスケジュール》

1月25日 入門式

2月22日 洗礼志願式

